

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第30週 (7/20-7/26) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	30週	29週	28週	27週
小児科	18	17	18	18
眼科	5	4	5	5
インフルエンザ*	28	27	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	7/20-7/26	7/13-7/19	7/6-7/12	6/29-7/5	7/13-7/19
			30週	29週	28週	27週	29週
小児科	RSウイルス感染症		1	0	0	1	8
	咽頭結膜熱		4	2	14	14	122
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		53	55	55	56	418
	感染性胃腸炎		52	81	105	107	547
	水痘		1	3	5	7	35
	手足口病	↓★★★	218	217	137	89	958
	伝染性紅斑	↓	21	26	29	25	186
	突発性発しん		17	26	15	10	86
	百日咳		1	0	3	1	1
	ヘルパンギーナ	○	85	42	39	5	627
	流行性耳下腺炎		1	6	14	10	87
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	1	0	0	10
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	3	3	3	41
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	50歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出				
結核	男性	70歳代	画像診断	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	女性	70歳代	IGRA検査等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	30歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認	風しん	男性	10歳未満	臨床診断
				風しん	男性	10歳未満	臨床診断
レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出	風しん	女性	10歳未満	臨床診断

・結核4件(129)、腸管出血性大腸菌感染症1件(7)、レジオネラ症1件(6)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(5)、急性脳炎1件(5)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(19)、風しん3件(4)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

### 定点当たり報告数 第30週のコメント

<手足口病> 前週より減減少し12.11となったが、流行発生警報開始基準値は上回ったまま。過去10年の同時期と比べると多い。

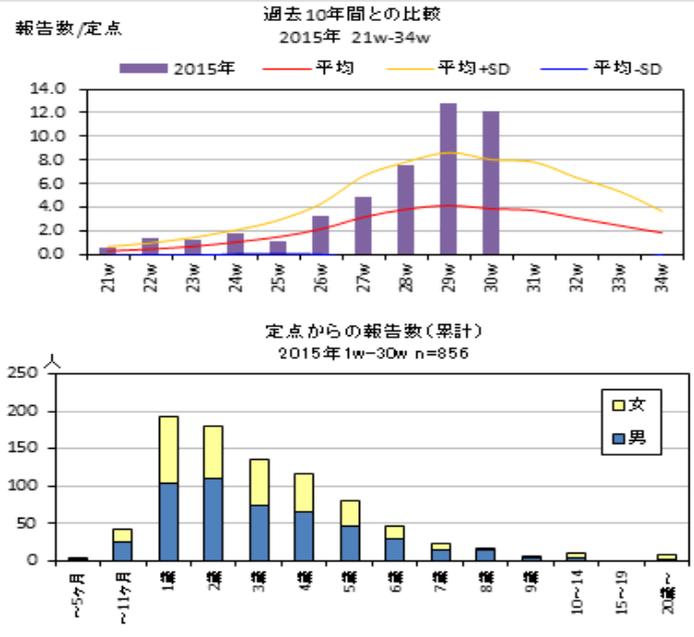
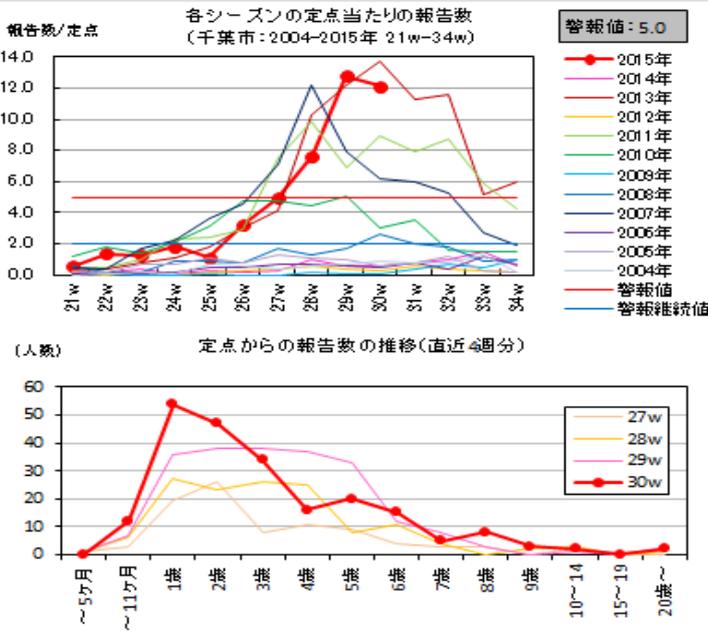
<伝染性紅斑> 前週より減少し1.17となったが、過去10年の同時期と比べると最多。

<ヘルパンギーナ> 前週より増加し4.72となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。

■ トピック ■

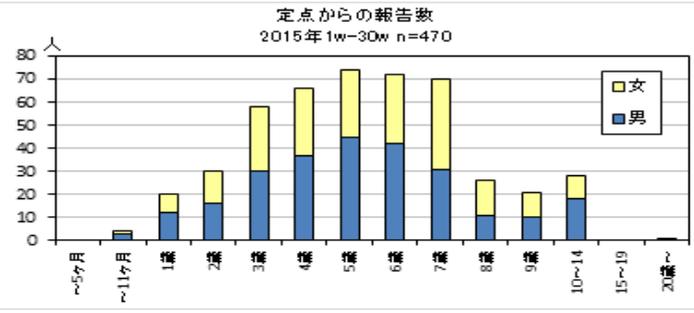
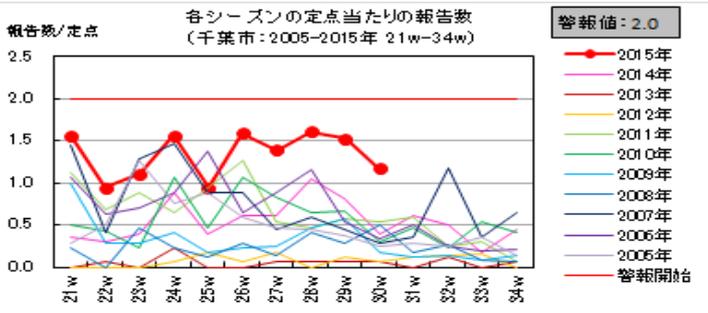
＜手足口病＞

全国レベルの第29週現在は、過去8年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、福井県、埼玉県、栃木県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2015年第30週は前週から減少し12.11となりましたが、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままです。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、中央区が再び増加した結果、全区で流行発生警報開始基準値を上回るか同じ値となっており、稲毛区(23.3/定点)が最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第30週までの累積報告数(n=856)によると、性別では男性が57.0%(488名)、女性が43.0%(368名)で、年齢階級別では1歳(22.4%:192名)、2歳(21.0%:180名)、3歳(15.8%:135名)の順に多くなっています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第29週現在は、過去8年の同時期と比べ最多となりました。都道府県別では、長野県、大分県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2015年第30週は前週から減少し1.17となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままです。区別の発生状況は、稲毛区(4.33/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。また、花見川区は流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報継続基準値(1.0/定点)を上回っています。2015年第1週から第30週までの累積報告数(n=470)によると、性別では男性が54.3%(255名)、女性が45.7%(215名)で、年齢階級別では5歳(15.7%:74名)、6歳(15.4%:72名)、7歳(14.9%:70名)の順に多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの第29週現在は、過去8年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、三重県、佐賀県、大分県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第30週は前週から増加し4.72となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなりました。区別の発生状況は、美浜区(6.25/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回り最多で、同区の3歳及び6歳で最も多く発生報告がありました。また、稲毛区では流行発生警報会基準値に達しました。2015年第1週から第30週までの累積報告数(n=190)によると、性別では男性が47.9%(91名)、女性が52.1%(99名)で、年齢階級別では1歳(26.8%:51名)、3歳(20.0%:38名)、2歳(18.4%:35名)の順に多くなっています。

